

～3年の修業の後、国家試験合格。

いよいよ夢の実現、そして社会貢献へ～
理療の分野で活躍する卒業生たち

鈴木 香織さん

(平成17年度 専攻科理療科卒業)



私は現在、特別養護老人ホームにて機能訓練指導員という職種に就いています。主な業務内容は入所者に対する運動・物理療法いわゆるリハビリを行う仕事です。

私は元々、介護福祉士に興味を持っていたのですが、弱視であることから難しいと思っていました。しかし、あん摩マッサージ指圧師の資格を生かし、機能訓練という別な角度からホームで生活されている高齢者を支援できると知り、進路を決めました。

いまだに学ぶ事の多い毎日ですが、入所者に寄り添い、心身共に支えていくことのできる機能訓練とは何かと常に考えながら、日々精進していききたいと思います。

(特別養護老人ホームあたまホーム勤務)

後藤 寿彦さん

(平成17年度 専攻科理療科卒業)



現在、訪問でのマッサージをする会社で働いています。

入学前、徐々に視力が低下し車の運転も出来なくなり、一年ほど会社を休んでいました。通院の帰り何気なく盲学校に行き、どんな所なのか見学をさせてもらいました。親切に校内を案内され説明をして頂きました。学校と言うものから二十年以上離れていましたが、それでも三年間お世話になり、何とか無事卒業、資格も取得出来ました。

今こうして人の役に立てる形で社会復帰出来たことに深く感謝しています。これからも、この感謝の気持ちを忘れずに、患者さんや周りの人達との信頼を深めながら、日々勉強していこうと思っています。

(ふれあい心のサービス勤務)

久保田 健太郎さん

(平成19年度 保健理療科卒業)



目が不自由なこともあり、就職先に困っていた時、盲学校の存在を知り、そこで理療師になれることを知りました。入学当初は慣れない勉強に大変でしたが、先生方のご指導のお陰で少しずつ楽しくなってきました。

現在は、患者さんのご自宅や施設に訪問して、マッサージを行っています。色々な利用者さんに触れ、症状も疾患も違うため、日々大変ですが充実しています。患者さんから感謝して頂けるこの仕事ができ、誇りを持って臨んでいます。

(福島ウェルフェアサービス勤務)



福島県立視覚支援学校 理療科

郡 剛志さん

(平成19年度 専攻科理療科卒業)



私は、専攻科卒業後、国家資格取得と同時に治療院を開業しました。地域に信頼される治療院を目指し、日々患者さんの治療を行っています。

東日本大震災後は各地の避難所でボランティア治療に携わり、多くの方の心身を癒すことが出来ました。盲学校で身につけた知識と技術は、地域医療を行う上で多いに役立っています。

盲学校と出会っていなければ、私はきっと何者にもなれなかったでしょう。盲学校は私に光を与えてくれました。理療師は私にとって天職です。これからも多くの方々に必要とされる理療師であり続けたいと思います。

(こおり治療院 院長)

南場 英世さん

(平成20年度 専攻科理療科卒業)



視力の低下により、以前の仕事を諦めなくてはならなくなった時に、盲学校の存在を知りました。元々人と接する仕事が好きだということもあり、理療師としてもう一度社会を目指してみようと思いました。

学校では解剖学や生理学が特に理解するのに苦労しましたが、実習で多くの患者さんに触れる事が出来たことは今でも大きな力となっています。

現在は病院で看護師と協力しながら理学スタッフとして働いています。患者さんに「よくなったよ」とか「ありがとう」と言われた時は、本当にこの仕事に就いて良かったと思います。これからも日々勉強をして、技術と知識を高めていきたいと思っています。

(山家整形外科勤務)

鈴木 邦洋さん

(平成21年度 保健理療科卒業)



現在私は、訪問在宅マッサージをしております。在学中は東洋医学が苦手でしたが、一生懸命勉強しました。現在、西洋医学的マッサージを中心に施術しておりますが、東洋医学の経絡なども大切なことだと強く感じており、利用者さんにも感謝されております。

利用者さんに喜ばれていることが何よりも嬉しく、充実感があります。利用者さんの症状は一人ひとり違い、悩む時もありますが、そんな時は学校で学んだ基本に立ち返り、頑張っております。医療人として信用される存在になりたいと思います。

皆様も信頼される理療師を目指しませんか。

(レイス治療院いわき勤務)



福島県立視覚支援学校 理療科